

平成20・21年度研究課題報告書

研究代表者： 光森 通英

所属・職名： 京都大学大学院医学研究科放射線医学講座
放射線腫瘍学・画像応用治療学 准教授

研究課題名：
(和文) 医療実態調査研究による放射線治療施設基準化(案)の改訂
(英文) Revision of Guideline for Structure of Radiation Oncology by
Patterns of Care Study

研究組織：

研究代表者： 光森 通英、京都大学
研究参加者： 宇野 隆、千葉大学
大西 洋、山梨大学
小口 正彦、癌研究会附属病院
権丈 雅浩、広島大学
小泉 雅彦、藤田保健衛生大学
古平 毅、愛知県がんセンター
鹿間 直人、信州大学
角 美奈子、国立がんセンター
立崎 英夫、放射線医学総合研究所
手島 昭樹、大阪大学
戸板 孝文、琉球大学
中村 和正、福岡大学

研究成果

わが国で放射線治療を必要とする癌患者は増加の一途をたどっており、これらの患者すべてに安全で質の高い標準的放射線治療を提供することを求められている。。さらには日々生み出される新しいエビデンスに追随して高度な治療を実施する能力を持つことが望ましい。これらの要求に応えるために必要な、放射線治療施設の備えるべき施設構造Structureについて、具体的な達成目標を提言することが本研究の目的である。

これまでに、厚生労働省がん研究助成金阿部班(8-27)で「放射線治療施設の基準化(案)」が、同手島班(14-6)・JASTRO平成15・16年度研究課題で「がんの集学的治療における放射線腫瘍学—医療実態調査研究に基づく放射線治療の品質確保に必要とされる基準構造一案」(以下日本版BlueBook)(が策定されている。厚生労働省がん研究助成金光森班(18-4)およびJASTROの2007年定期構造調査の結果、短期間の間に大きな変化が見られたことから、最新のデータを元に日本版BlueBookを改訂することとした。

前回の日本版BlueBookに対する主な追加・変更点は以下の通りである。

1. 図表等に用いているデータをPCS03-05および2007年JASTRO構造調査のものに差し替え、また、厚生労働省の統計データも最新のものに差し替え、対応する本文記載を更新
2. 各種数値算定の基礎となる治療所要時間に関して、最新のIMRT、IGRTのものを追加
3. 小線源治療の項に低線量率組織内照射(前立腺癌根治治療)に関する記載を追加
4. その他の先進的治療設備と基準の項にIMRT施設基準を追加
5. 品質管理の項にIHE-R0に関する記載を追加
6. 品質管理の項でQA/QCに関わる参考文献を追加・整理
7. 品質管理の項に過誤照射時の対応に関する記載を追加・放射線治療事故のクラス分類表を記載
8. スタッフ基準の項において各職務の具体的内容および資格に関する記載を追加
9. 経済的分析の項に放射線治療診療報酬の変遷および年間治療患者数別の収支シミュレーション表を追加
10. 結論の項で今後の放射線治療需要予測を更新
11. 用語解説に最新の用語を追加

なお、完成した成果物はJASTRO構造調査対象施設および関係行政機関・マスコミ各社等に配付した。